

○議長（小林哲雄）

引き続き、一般質問を行います。

9 番、佐々木昇議員、どうぞ。

○9 番（佐々木昇）

皆様、こんにちは。9 番議員、佐々木昇でございます。

本日は、通告に従い一つの項目について質問させていただきます。地域資源と文化活動を活用した観光振興を目指して。

開成町は、足柄平野に大なる恵みをもたらしてくれる酒匂川の清流に抱かれ、北部地域に広がる田園風景やあじさい公園、町内を網羅するように流れる河川や水路など美しい景観を有した、太陽と水と緑の調和した豊かな自然環境にあります。この地理的メリットを生かして行われるあじさい祭も、今年で26回目を数え、町内外にも浸透し、観光祭りとして定着したと考えております。また、同じく今年で26回目を迎える開成阿波おどりも開成町の初秋の風物詩として親しまれ、町内外の踊り手、約1,100人が祭りを盛り上げております。

この開成阿波おどりは、自治会を中心として結成された11連を初め、町内連、事業所連などが町を挙げて盛り上がる、ふるさとの貴重な文化活動であると考えております。今後のさらなる観光振興に向けて、これらの地域資源と文化活動を発展させる必要があると思いますが、今後の方針について伺いいたします。1、あじさい祭、阿波おどり、瀬戸屋敷ひなまつり、それぞれの位置づけは。2、あじさい祭、阿波おどりのイベント内容の見直しと計画は。3、さらなる観光資源を掘り起こし年間を通じた誘客活動につなげる計画は、について伺いいたします。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

佐々木議員のご質問にお答えします。

一つ目、あじさい祭、阿波おどり、瀬戸屋敷ひなまつり、それぞれの位置づけということですが、いずれも開催当初から町民自らの手づくりが基本にあり、町民全体の連携や結束を初め、町の商工振興会、飲食店組合や農家の方々など、町内の各種団体の皆様のおもてなしの思いが祭を支えている三大事業だと思っております。

あじさい祭については、昭和58年から平成2年ごろにかけて上島・岡野地区の圃場整備地域に植栽し、美しく咲きそろう約5,000株のあじさいの花を観光資源として開成町の名前を町外に発信するとともに、町民と都市住民との交流の場の創設を図る祭りとして昭和63年から開催をしております。今年で26回目の開催となりましたが、今回の来訪者数、約20万5,000人に上がっております。今では、町を挙げての花が主役の祭りとして定着をしつつあります。

次に阿波おどりですが、商工振興策の一環の祭りとして昭和63年度から開催され、今年で26回目の開催となります。この阿波おどりは、来訪者や参加者の皆様

に阿波おどりの連帯感と躍動感を伝える機会を提供し、町民相互が競い連携し楽しめる祭りとして開催をしております。また、阿波おどりは町内連を主体として開催していますが、町内自治体の連携や親睦を初め町内の経済の活性化にも寄与しているものと理解をしております。回数を重ねるごとに近隣地域を初め県外地域との交流も深めており、人が主役の祭りとして定着をしております。

瀬戸屋敷ひなまつりは、平成15年度から開催され、次回開催が11回目となります。当初は町婦人会の自主事業として行われておりましたが、瀬戸屋敷で行うことにより古民家の趣と町婦人会が制作したつるし雛の鮮やかさが来園者の心を捉え、年々、来園者の数が増えております。現在では、町の早春の風物詩とも言うべき美しい観光資源に育ちつつあります。瀬戸屋敷ひなまつりは、古民家で町婦人会が主体となって町の文化や歴史を発信する、つるし雛が主役の祭りとして位置づけております。

二つ目のご質問、あじさい祭、阿波おどりのイベント内容の見直しと計画について。

あじさい祭、阿波おどり、瀬戸屋敷ひなまつりは、全て実行委員会を組織して開催をしております。そのうち瀬戸屋敷ひなまつりは他の祭りと異なり、祭り自体の企画・運営から実施に至るまで、全て実行委員会が主体となって開催をしております。また、この祭りは事業費の面でも自立しており、事業終了後には毎年、事業収入の一部を町へ寄附をしていただいております。町としては、あじさい祭や阿波おどりにについても、瀬戸屋敷ひなまつりで行っているように実行委員会が主体で企画・運営から開催まで行えるよう、真に自立したイベントとして発展できるような方策について、関係機関と協議し実現していきたいと考えております。

それでは、個別の内容についてお答えします。

あじさい祭では、毎年、イベント内容の見直しを行い、舞台棟やあじさい農道等で開催するイベントや出店のバラエティの工夫により祭りの魅力づくりを図っております。例えば、今年度は子どもたちの笑顔をテーマにしたたしきみ休憩所での絵画展や風車、大道芸やミニS Lの同時開催によるイベントの充実を図りました。そのほかにも、今年度から交流を再開した北海道幕別町の物産品ブースや、震災復興支援のため宮城県特産品ブースの開設等で会場の盛り上げを図りました。

これからも多くの来訪者をお迎えするためには、祭りの主役であるあじさいを、より多くの皆さんに見ていただき、開成町のあじさいの里のよさを十分味わっていただくことが、あじさい祭の本来の魅力であると考えております。そのため、毎年実施をしているあじさいの植え替えや補植をこれまで以上、充実することで、皆様にきれいに咲いたさまざまな種類のあじさいの花を見ていただけるように、今後もあじさいの種類や植栽を工夫していきたいと考えております。

また、今年度実施した見晴らし台では、あじさいの里を高所から見ることはできなかったため、次年度以降、高所からの鑑賞方法について検討していきたいと考えております。

なお、広域連携の面では、既に実施している南足柄市千津島地域のハナアオイ祭り、松田町のハーブフェスティバルや民間企業との連携などがありますが、さらに広域連携を図り、周遊できるルート開発や来訪者の誘致に工夫をしていきたいと考えております。

次に、阿波おどりについては、踊りのコンテストをより多くの方に見ていただくため路上でのコンテストの開催や、観客の皆様にゆったりと見ていただけるように栈敷席の設置などを行ってきました。また、昨年度は第25回目の節目としてオープニングパレードを開催するなど、イベントの構成や観客の安全を確保する施設の充実、踊り手のマナーの向上など、さまざまな面で改善を行っております。今後は、昨年度に初めて実施したオープニングパレードをさらに盛り上げる企画・運営や、祭りの充実を図るための各踊り会場の充実、コンテストの運営方法など、観客と踊り手が一層楽しんでいける祭りを考えていきたいと思っております。

なお、阿波おどりについては、既に町の主たる祭りとなっておりますが、当初の経過が町商工振興会の盆踊りであったことを踏まえ、足柄上商工会等の団体に移管することも検討する必要があるのではないかと考えております。

三つ目の質問、さらなる観光資源の掘り起こし、年間を通じた誘客活動について。

町では、平成23年度に北部農業振興地域を対象地域として、歴史・文化や自然・景観、産業などの地域資源を瀬戸屋敷と絡めつつ地域の活性化の事業方針をまとめた6次産業化の展開事業計画を策定いたしました。この事業計画に基づいている農業体験観光や端午の節句、お月見などの地域の年間行事を見聞する観光、古民家を利用した学習などを新たな観光資源に掘り起こしたいと考えております。具体的には、平成25年度中に予定している町の北部地域の活性化に向けた検討の中で町民の方々からのアイデアをまとめ、年間を通じた観光となり得る資源を創出していく計画であります。

以上であります。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

順次、再質問させていただきます。

あじさい祭の位置づけについて、お聞きします。答弁では町名を外部に発信することとしておりますが、具体的に、どのようなことをやっているのか、お聞かせください。

○議長（小林哲雄）

産業振興課長。

○産業振興課長（池谷勝則）

それでは、ただいま町名を外部に発信するということで質問かと思います。答弁にもありましたように、あじさい祭、こちらはスタート時点から自然とロコミで、スタートをして回数を重ねるごとに神奈川県下ではおおよその方は開成町の名前を

憶えていただけているようになっております。また、実際に外部に町名を発信するというので、現在ではインターネットでも、あじさい祭を検索すると「あじさい祭」というのがヤフーで一番に提示されるように、そこまで知名度は上がってきているのかと思っております。

手法といたしましては、新宿、町田、相模原、横浜、海老名、また小田原等でキャンペーンを展開いたしまして、このときにいろいろと大々的に実施することによって町名を町外に発信する、これをもってお祭りに来客も多く誘致しているということを行っております。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

今、何カ所かの土地に行かれてキャンペーンを行っているというようなお答えをいただきましたが、どのようなことを行っているのでしょうか。また、このキャンペーンの成果などがあれば、お聞かせください。

○議長（小林哲雄）

産業振興課長。

○産業振興課長（池谷勝則）

あじさい祭だけでいいますと、例えば、今年のあじさい祭では相模原の駅構内でのキャンペーンを張らせていただきまして、こちらでチラシの配布、またはあじさいの配布をいたしまして、あじさいの苗木、こちらを鉢植えにしてプレゼントをすとか。また、昨年につきましては、海老名のパーキングエリアでやはりキャンペーンを展開いたしまして、このときには町のお祭りに来場していただけるとプレゼントと引きかえできるような券を配布するとかして、来客が少しでも来ていただけるようなことを展開しております。

どれだけ来たのかということは、アンケートとか、そういうことはやっていないのですが、実際に来ている方たちから多少話を聞いた中では、やはりキャンペーンでチラシを見て来てみたいということで来られたという方が何人かいましたので、このようなキャンペーンを行うことによって多少の誘客は考えられているのかなと、このように考えております。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

ただいまキャンペーン活動のPR活動のお話をいただきましたが、ほかには、どのようなPR活動を実施しているのでしょうか。ありましたら、お聞かせください。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

私もいろいろなところで自らPR活動をしていっておりますので、その具体的な

話としては、まず一つは年間を通して町長の名刺には裏に開成町の三大イベント、ちゃんと絵をつけて、いつでも、開成町はこういうイベントをやっていますよというのは、誰にでも、どこでも、町長の名刺を渡すときにはPRを町長として個人ではやっております。

また、今回、特に大きいのはマスコミ。NHKを初め、テレビの朝の天気予報でも、朝3回、今年のあじさい祭においては、テレ朝でしたか、来ていただいたり、そういうところがすごく大きいと思います。個別的には、小田急の先ほど言った相模原の駅においてPRもするのですが、それは1日だけの話ですので、そうではなくて、もっと広くPRしていくには、やはりNHKほか、そういうところのマスコミを使ってお願いをして載せてもらうというのが一番大きなことになるとと思います。

もう一つ大きなことは、小田急といろいろ連携をさせていただいて、小田急線の電車の中につるし広告という形で、今年も、たしか1,000枚ほど無料で掲示をしていただくことができましたので。今年度、小田急の駅長が4月から新宿の駅長に異動になりましたので、今度はもっと広く、小田急の新宿駅長と連携をしながら広い範囲で開成町のPRをしていきたいと考えております。

最後については、また課長のほうから説明をいたします。

○議長（小林哲雄）

産業振興課長。

○産業振興課長（池谷勝則）

ただいま町長が言われましたように、各ポイントごとのキャンペーン以外に、小田急電鉄さんの今、言ったようなつるし関係、また、小田急の駅には全て大きいポスターを設置させていただいたりしております。

このところ多くなっておりますが、旅雑誌とかウオーキング雑誌、雑誌の記載が毎回、載せていただいているというのが大分大きいポイントになっているのかなと考えております。もちろん、今年につきましては、特に小田急電鉄さんグループに大分協力していただきまして、先ほど町長からありましたお天気時間にバック映像にずっと出ていたとか、または、ほかのところのちょっとした時間時間にももちろん出ていたというのがございます。毎年行っているのは、神奈川テレビ、または小田原ケーブルテレビとかの町長生出演のPR等も実施はしております。

以上です。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

かなりいろいろなPR活動をしているようではございますけれども、そのような活動によってお客さんが来られるのですけれども、お客さんからちょっと聞いた話なのですけれども、あじさい祭に車で来られて開成町に入ってくるのですけれども、そこが開成町だとわからないということで、町境などにアーチなどで、アーチと言ったらちょっと大げさかもしれませんが、上り旗みたいなものでも結構ですけれども、「よう

こそ開成町へ」みたいな、そんな。町のPRにもなりますし親切感も出るのかななんて思うのですけれども、そういったものの活用について、町はどのようにお考えでしょうか。

○議長（小林哲雄）

産業振興課長。

○産業振興課長（池谷勝則）

既に、県道の足柄大橋のある通りの県道がございますね、そちらの吉田島の交差点の酒匂川寄りのところのタワーでは、開成町の「ようこそ、あじさいの町へ」というようなことで記載はさせていただいております。また、祭り期間は、この交差点の周辺から新十文字橋の通りの周辺には上り旗等を立てて歓迎をさせていただいておるのが現状でございます。10年ほど前に比べて車で来られる人が少し減っているのかもしれないのですが、昔は大分、県道が渋滞をして動かなくなったというのがあるのですが、今は公共交通を多く使われている方が多いのか、シャトルバスを使っているのか、昔に比べて多少は車の量が減っているのかなと。それでも大多数の方が車で来ておりますので、このような年間を通しての固定の広告塔以外に、お祭りの期間については上り旗等でわかりやすく表示できるような形を考えていきたいと思っております。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

すみません。私も、ちょっと気づかないところがありました。PR活動は集客、イベントを盛り上げるために非常に重要だと思いますので、今でも積極的にやっているとされているようですけれども、今後とも積極的にPR活動は行っていただきたいと思っております。

次に阿波おどりですが、人が主役として定着されているということですので、以前より事業所連が少なくなっております。これについて、町の考え、また対応策があれば伺いたします。

○議長（小林哲雄）

産業振興課長。

○産業振興課長（池谷勝則）

実際にスタート時点では、各自治会と町の事業所が4連ないし5連ほど出ていただいたのかなと。今現在、3連ぐらいしかないのかなと思っております。町も、先ほど町長の答弁にありましたように、町内の自治会を主体としているということと町民の交流とか親睦、これらがあることと、町内の経済効果を上げる、また町内でいろいろと競い合うとか購入、打ち合わせも町内でやっていただけるということであれば、町民だけでなく事業所の参加もお願いしたいと考えているところではございます。そのために、私たちも今、増設をしていただけるような前にやっていた団体さんにお話をしたりはしておるのですが、なかなか今のこのご時世では、すぐに

実施できるよという答えはいただけないのが現実です。ですけれども、これからも機会あるごとにはお話をして、参加を勧めていきたいと思っております。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

ぜひ、今後とも、そういう活動を続けていっていただきたいと思います。

現在、阿波おどりの人口の減少、また若い人たちが加入しにくくなっているということで、自治会連さんも苦労しているようですけれども、これについての町の考え、または対応策をお伺いいたします。

○議長（小林哲雄）

産業振興課長。

○産業振興課長（池谷勝則）

町内連の主といたしましては、先ほど言いましたように各自治会の自治会連が主になっておりまして、各自治会では子どもたち、多分、子ども会さんを主体にして協力をしていただいているのかなと思っております。この子どもたちが少し大きな高校生とか中学生ぐらいのお手本をベースにして懂れて続けていただければ、すそ野がどんどん広がっていくのかなということでは考えておるのですが、実際には、なかなかついていってくれるお子さんがいないというのが現場での声として聞いているところです。

そのために、町内にあります開成阿波おどり連協会という踊りの12の連の集合体でつくっている協会がございますが、こちらでは、ここ数年、小学校に出向いて阿波おどりの教室の実施とか、または小学校の運動会での披露を行って阿波おどりを子どもたちに見てもらっているというのを今、行っております。これからは阿波おどり教室の実績を伸ばしていきたいところなのですが、どのくらいの実績があるかと聞いたところ、ほんの数名しか出ていないというようなことで、まだすぐには結果が出ていない状況だというふうに聞いております。連協会としても、まだしばらく教室の開催、または運動会の披露については続けていきたいということを言っておりますので、私たちも、これに基づいて少しでも多くの方が参加していただける、また各自治会の連に入っていただけるようお願いしているところでございます。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

また、阿波おどりを盛り上げるためには、各連の方たちが練習場の確保にも苦労されているようですけれども、この辺は、町ではどのようなお考えをお持ちでしょうか。

○議長（小林哲雄）

産業振興課長。

○産業振興課長（池谷勝則）

練習につきましては、スタート時点ごろは、まだカセットテープ等を使つての踊りの練習が主だったかと思いますが、その後、数年後から鐘とか太鼓を使った鳴り物というのが大分入ってきてまして、音が大分大きくなっております。今から２３年ぐらい前だと、まだ、それほど周りの人もうるさくなく、各自治会を基本にして練習ができたのかと思うのですが、ここ数年、苦情が実際、出ているところがございます。それで、今では大きい建物、例えば、福社会館の建物の中でやらせていただいたり、または南部のコミュニティセンターを使わせてもらう、このようなところで実際やっている連もあるというふうに聞いております。

私たちは、自治会の連というのは自治会としてまとまっていたというのを考えておりますので、なるべく自治会のまとまった施設の中で、また周りの人に余り迷惑をかけないような状況の中で進められれば一番いいのかと思うのですが、なかなか、そうもいかないのが現状なので、そういう公共施設を使つての練習の場というものを今後はみんなと調整をしながら使っていく、そういう形になろうかと考えております。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○９番（佐々木昇）

ぜひ、そういったサポートも町としてやっていただきたいと思います。

次、答弁のほうに、近隣地域を初め県外地域との交流も深めてとありますが、具体的に、これはどのようなことなのでしょう、お伺いいたします。

○議長（小林哲雄）

産業振興課長。

○産業振興課長（池谷勝則）

近隣初め県外ということなのでございますが、まず、阿波おどりのスタート時点で、開成町で阿波おどりを知っている人がほとんどいなかったというのが現状でございます。そのため、阿波おどりの手本を東京高円寺の連の方にご協力いただいて手ほどきをいただいたのがスタートになっております。また、あわせて、大和にあります大和連というところからもご協力いただいて、開成町のスタートの阿波おどりのときには、県外から大和の天狗連という団体さんと、あと大和連という、そちらの二つの連が２５回目を過ぎた今でも一緒になってお祭りに来ていただいているという親睦が今、つながっていると。

また、近くでは山北町にあります連、それから秦野にあります連も、開成町からも秦野のお祭りに行って、また秦野の人たちも開成町のお祭りに来ていただけるということで交流が進んでいると。また、近くでは、静岡県の三島市の駅前で行っている阿波おどりがあのですが、こちら数年前から交流を結んで、開成町のほうでも踊っていただいて、私たちも三島のほうに行って踊っているというふうに聞いております。このように、阿波おどりをを行うことによって、両方が招待したりされ

たりする形で顔なじみになって親睦をしているというのが現状になっているのかなと。そういうことで交流をして、多くの人たちに見てもらっているのかなと考えております。

また、これ以外に、例えば小田原とか、そういうところで、各小さい団体さんでも、お祭りの開催に合わせて開成町の阿波おどりに来ていただきたいという要望がある場合には、連協会に調整をしていただいて、そちらに出向いてお祭りに参加させていただいて、開成町の阿波おどりというものをPRしていただいているところでございます。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

先ほど、阿波おどりは町民の方々が楽しめるお祭りという答弁がありました。これは非常に大切なことだと私も思っております。

また、町内の経済の活性化にも寄与しているという答弁もございました。今後、私は、こちらのほうにも意識を向けて、阿波おどりも今回で26回目となります、阿波おどりを開成町の一つのブランドとして、文化活動として、先ほど言われました阿波おどりの交流以外にも、町外のお祭りやイベントなどに出て町のPRができるような位置づけとしても考えられてはどうかと思っておるのですけれども。例えば、天狗連さんなんかは、海外遠征なども行かれているなんていうようなお話も聞いております。また、こういった活動をすることによって阿波おどりの魅力も深まり、阿波おどりの人口にも反映されてくるのではないかなというふうに考えているのですけれども、町のお考えをお聞かせください。

○議長（小林哲雄）

まちづくり部長。

○まちづくり部長（芳山 忠）

ご指摘とご提案、ありがとうございます。確かに、さまざまところへ、連が活性化していく中で外へ出ていくといったことも、機会が捉えられれば非常にいいことだと思います。こういったご時勢で財政的にも非常に厳しいものがございますけれども、そういった機会が捉えられれば、そういったことも検討していきたいというふうには考えております。

以上です。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

阿波おどりににつきましては、今後、町の文化活動だということも念頭に置いていただけたらなと思っております。

続きまして、あじさい祭にしましては、イベント内容は毎年工夫をされているようですが、計画のほうで、さらに広域連携を図り周遊できるルートの開発とあり

ました。具体的に、現在どのようなことを行い、今後、どのような開発をしていかれるのか、お聞かせください。

○議長（小林哲雄）

産業振興課長。

○産業振興課長（池谷勝則）

まず、あじさい祭等のところで町長答弁にありました、さらなる広域連携というようにことだと思うのですが、先ほど答弁にもありましたように、既に花を主題として松田のハーブフェステと、それから南足柄市の千津島で行っている花葵、こちらはシャトルバスとか、または徒歩で散策路で結んでの連携をして楽しんでいただいているところですが、また、あわせて南足柄市にあります企業と連携をして今年からシャトルバスを再開することができて、こちらにつきましては、毎回、開成町のあじさい祭を見た後に、その会社の施設見学と食事を体験するというルートでのお客さんが増えているというふうに聞いております。こちらにつきましては、ビール会社のほうでも、余りにも多いので、去年、一昨年ですか、ちょっと休憩したというのが実際にあるというふうに聞いております。

今後については、実際、チラシ等では配布しておるのですが、小田原市では、そのときにあやめ祭りとかあじさいをあわせてお祭りをお城の周辺で行っているものとか、また南足柄市の最乗寺のあじさいの参道、箱根町のあじさい電車、これらのものと、あと開成町北部地域の農業体験を組み合わせると何か考えられるのかなど。この辺を試行錯誤しながら、新規散策ルートとか周遊ルート、これらを模索して現実にPRできるようにしていきたいと考えております。

それで、先ほど阿波おどりのところで私が説明いたしました三島という話なのですけれども、大変すみません、裾野でした。大変すみませんでした。裾野連というところが来ております。

以上です。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

これにつきましては、今、試行錯誤でやられているということですのですけれども、ぜひ、よい結果を上げられるようにしていただきたいと思います。

続きまして、阿波おどりに関してお聞きします。阿波おどりのさらなる充実を答弁でいただいておりますが、今以上の集客というのは阿波おどりで可能と考えておりますでしょうか、お聞かせください。

○議長（小林哲雄）

産業振興課長。

○産業振興課長（池谷勝則）

阿波おどりの集客というようなことでございますが、今現在、阿波おどり、開成町内で行っている今の運営方法、または企画の内容では、これ以上、極端に集客を

多くするということは大変難しいかなと考えております。実際に、答弁にもありましたように、路上コンテストや踊り会場周辺の充実、これらはもう既に行っておりますが、もっと変えるということをしなない限り、集客を増やすということは難しいのかなと考えております。

では、具体的に、どのような考えがあるかということでございますが、今、ちょっと考えられているものとしたしましては、例えば、踊る会場の変更が可能なかどうか、またはコンテストの方法、方法というのですか、場所というのですか、例えば、昔やっていたような囲いの中でやることによって少しグレードを変える方法もあるのかどうかとか、そういう模索をする必要性があるのかなと。

また、先ほどの話にもありましたように、開成町、13連ぐらいが地元の自治会連とか地元連になっておりますので、この中に新たに事業所の連に新規に入っていただきまして、また、新規に入っていただくことによって一つの起爆剤になって集客が望めないのかなと。こういうふうなことを考えておるところではございますが、なかなか答えが出てこないのが現状なのかなと思っております。

開成町の阿波おどりとはほかの地域の阿波おどりというのは大分違っておりまして、開成町の阿波おどりにつきましては、ほかのところの阿波おどりといったほうがいいのか、例えば、東京高円寺または大和なんかでは、運営の主体となる組織というのは、商店街とか商工会というふうなのが主体となって実施しているケースが多くございます。そうしますと、商店の方たちも、売り上げを上げるために、お客さんに少しでも来ていただく、そういうふうなPRを含めた中での阿波おどりの実施、また運営がどんどん盛んになってきているのかと思います。しかし、開成町、そのような商店街とか商工会がうまく合わさった形では今はありません。開成町が今やっていますような実行委員会制に基づき、開成町が、ある程度、押した形の中での運営になってしまっているのが現状なので、どうしても、ほかのところと違っているんで、ほかのところのような伸びというのが見られないのかなと。今後、例えば、開成駅周辺の開発、または商店街の設置、そういうことに基づいて踊る会場の変更とか手法を変えることによって集客を増加させることは可能にはなるのかなと、このようには考えております。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

私も、会場を移すということはちょっと考えていたのですがけれども、集客を考えると開成駅周辺とか、そういうところなのかなんていうのは考えておりました。これ、町でも今、考えておられるということで、ぜひ前向きに検討していただきたいと思います。

続きまして、あじさい祭に来た方からお話をされたところから何点か、ちょっと質問させていただきたいと思います。

まず、あじさい祭に撮影スポットはないのかということです。また、あじさい祭、

あじさい畑のように一面にあじさいがあるところがあればよいのになんていう声をお聞きしました。この辺につきましては、町では、私的には、ぜひ、こういう撮影スポット、あじさい畑みたいなようなところをつくっていただきたいと思うのですけれども、町のお考えをお聞かせください。

○議長（小林哲雄）

産業振興課長。

○産業振興課長（池谷勝則）

まず、あじさいに限定するのであれば、例えば、あじさいの、今、あじさいの里と言っています上島、金井島の圃場整備一帯、それと岡野のあじさいの里という岡野地区の一帯が、あじさいが主になっております。これ以外に、まだ開成町では、例えば、祖師堂堤防上のあじさい、または各公園でのあじさいが大分、今、きれいに咲いているところもございます。私も、お客さんの中で、どこかい写真スポットはないですかというところでは、余り人が行っていない岡野のあじさいの里とか、そちらに行くまでのルートの中のアジサイを説明したりすることはございます。

また、先ほどちょっと説明にもありましたように、町長の答弁でもありましたように、今年、高い位置から、高い目線からあじさいの里を見ていただくという試みをしたのですが、考えたは考えたのですけれども実際にうまく作動していなかったということもありますので、来年以降、その辺をもう少し具体化して、上から臨めるあじさいの里という、そういう目線を変えたものも考えていきたいと考えております。

それから、あと、今ありましたように、一面にあじさいをというお話でございますが、あじさい畑という言い方でいいのですかね、そういうふうなことにしますと、農地の1筆とか2筆単位を全てあじさいにしようという考えかと思えます。そうすると、どういうことが考えられるかという、あじさいの苗木を育てる畑とか、そういう形になるのかなと。あじさいの畑だけで何か観光になるかという、なかなかありませんので、やはり土地を持っている方は、例えば、農家であれば農業経営の一環として、または造園屋さんであれば自分の売り物の一端として、あじさいの苗木の仕立て場所、そういうふうなところができればというお話になるのかなと思うのですが。

実際、今、開成町内にあじさい研究会というのがございますが、こちらの方たちに約1,000平米ちょっとの農地で、新しく開成町に合いそうなあじさいの植樹とか、また町が行っている補植とかにしているあじさいの苗床をつくっていただいておりますが、1,000平米ぐらいをやるのも大変だというのが現状で、1人、2人でできるというのは、造園業みたいな形で、専門の方でないとできないのかなと思っております。この辺では苗木を仕立てるところがないので、農家の方たちも入ってこられない部分かなと思っておりますので、できましたら、あじさいの里以外のところにあります、あじさいを借景といたしまして、例えば、松並木、酒匂川、箱根外輪山をうまくあわせた中でのあじさいを写真スポットとして捉えていただい

ればなど、このように考えます。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

撮影スポットという話は、かなりの方がされておりますので、ぜひ撮影スポットというのは前向きに検討していただきたいと思います。

あと、また、子どもたちが足をとめて遊べる場所がないという声もお聞きしました。開成町は水といった資源があります。子どもたちが水で遊べるような場所、私も幾つか、そういった場所に行ったことがありますけれども、近隣では小田原の上府中公園、噴水があって、ちょっと水があって水遊びができたりするところです。あと、一つ、山梨県に山中湖花の都公園というところがありました。ここもメインは花なのですが、その中に公園がありまして、また、その中に水遊具広場というところがあります。そこで水の遊具が置いてありまして、かなりの子どもたちでにぎわっておりました。ここの遊具で私もちょこっと遊んで、ちょっとおもしろかったのですが、開成町でも、あじさい農道周辺に、こういった場所をつくられてはと思うのですが、町の考えをお聞かせください。

○議長（小林哲雄）

産業振興課長。

○産業振興課長（池谷勝則）

開成町内には、今、言われますように、農業用水が縦横無尽に走っております。あじさいの里につきましては、自分の記憶だと昭和63年か平成元年、今の上島・金井島のあじさいの里の300メートルぐらい上流になるかと思いますが、武永田用水路というのがあじさい公園のすぐ横を走っております。その上流に、その当時、まだ余り親水という言葉が広まっていなかったころに、ステップ護岸といって階段護岸をつけまして、子どもたちが中に入れるような施設はつくってございます。ただ、そのころ、なかなか規格というのですか、どのような形がいいのかということがまだわからない状態の中でつくったものがあったりして、うまく遊び場になっていないのかなというのはちょっと考えられます。

また、今、中家村公園の一角にも、水に親しめるように斜路とか階段を使って水のところまで行ける、そういうふうな構造にしたものができているのは確かですが、遊具としてやっているものは、町内、どこへ行ってもないのかなと思っております。

今、子どもたちが遊べる場所と言われましたが、自然を求める、自然を戻すということで、特に、北部を主体に昭和60年ごろから自然に戻す改良方法というようなことで取り組んだ時期がございまして、今、北部では、至るところでもないのですが、ホテルが大分戻ってきているというのは、これらがうまく戻って、自然に触れ合う、また自然に合った改良ができてきて、その結果としてホテルというのが発生してきているのかなと。それがいきなり子どもの遊び場にはならないのですが、当時は、そういうふうに一生懸命、私たちも考えてやったと思っております。

今後、先ほど答弁にありましたように、北部の今後の活性化に向けたいろいろな事業展開の中で、どうしても子どもたちが遊ぶ場所というのが必要になってくるのかなと思います。それは、いろいろな体験というふうなものが含まれてくると思いますので、その中では自然に触れる、水の中に入れる、水と一緒に戯れることができる、そういう施設を計画することも必要なのかもしれないので、その辺で検討させていただきたいと思います。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

今の時代、子どもが行きたいと言った場所には、皆さん、足を運んできていただけるもので、おじいちゃん、おばあちゃんなんかも一緒についてくるようなことも多いようです。こういった場所をつくることで、今まであじさい祭に足を運んでこなかった客層の集客にもつながるのではないかなと思いますので、ぜひ検討していただきたいと思います。

また、これもあじさい祭に来ていた方なのですけれども、田園風景が素晴らしいということで、ぜひ、いつまでもこの田園風景を残していただきたいという声も聞きました。また、あじさいの時期はちょっとずれていたのですけれども、そんなときに田園風景の写真撮影に来ていた方がおられました。その方が、田園風景になると、今度、あじさいの枯葉みたいなものが田園風景の邪魔になってしまうというようなことを言っておられました。こういった自然の景観も開成町の観光資源の一つとして、景観を守るための維持管理をしていただきたいと思っておるのですけれども、町のお考えをお聞かせください。

○議長（小林哲雄）

産業振興課長。

○産業振興課長（池谷勝則）

あじさいにつきましては、次年度に、また、あじさいのきれいな花を咲かせるというようなことで、大体、7月の第1週の土曜日に剪定ボランティアというようなことで、枯れた花、または、まだ咲いている花かもしれませんが、花を取ってしまうという手法をして、汚くなった花、見づらい花は全部なくなるのかなと思っております。実際に秋口になると葉が枯れてしまうというようなことはあるのですが、まだ今の時分であると葉も青々として、それはそれで田んぼとうまく合った形で見ただけしているのかなと。ですから、町といたしましては、ただ単に見苦しい形であじさいを1年間放置することなく、そのときにあわせて花を摘み取ったりして管理をさせていただいていると、このように解釈しております。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

わかりました。

続きまして、先ほどの答弁にありました開成町北部地域の活性化に向けた計画ですけれども、年間を通じた観光となる資源を創出したいとのことで、実際に、これ実現するのは、いつごろを予定しているのでしょうか。

○議長（小林哲雄）

産業振興課長。

○産業振興課長（池谷勝則）

答弁にありました6次産業化の関係かと思うのですが、6次産業化につきましては、簡単に言いますと、一次産業、二次産業、三次産業を一次産業の生産者が全て行うというのがベースになっている国の施策でございます。開成町では、これに農商工連携を足して、町内の各団体さんも参加できるような形で考えているところではございます。これらを、今年度、検討会を立ち上げて、町民の皆さん、または団体の皆さんから意見を聞いて、それを集約し、今回の第五次総合計画では、前期の後半ぐらいまでには、ある程度の具体化を考えていきたいと。それから、第五次の後期になって事業化実施へ入っていききたいと。このようなちょっと漠然としたスパンですが、一応、まだ細かく年次割りはしていなく、前期の中で計画を完全に立ち上げて、早ければ前期の最終ぐらいから実施に入っていくと、そのように考えております。

○議長（小林哲雄）

まちづくり部長。

○まちづくり部長（芳山 忠）

すみません、ちょっと補足をさせていただきます。

ご存じのとおり、第五次総合計画につきましては、南部の現在のまちづくりも、もちろんなのですけれども、北部農振地域に対する振興策というのは非常に大きな課題といいますか、一つの目標として掲げておりますので、当然、現在、もう既に、いわゆる開成ブランドの創出事業ですとか、あるいは直販体制の問題ですとか、あるいは優良農地の確保に関連した、そういった北部農地の振興策ですとか、そういった計画もつくる予定にしております。したがって、年次割で、いつ何をやって、いつ何をやってということは現在の段階ではまだ申し上げにくいのですけれども、いずれにいたしましても、できる限り積極的に、早期に北部の振興については手をつけていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

年間を通じた観光客の誘致は、第五次総合計画でも挙げられて、町でも、現在でもかなり力を入れて取り組んでおられると思います。ぜひ、開成町の地域資源、文化活動をふんだんにアピールして、年間を通じた観光地としていただきたいと思います。

また、これは私、個人的な考えなのですけれども、イベントというのは、ある程度の時期が来るとリニューアルをしなくてはいけない必要があるというふうに考えております。内容に問題があるとか、ないとかではなくて、やはりお客さんから見てワンパターン化は否めないと感じております。開成町のあじさい祭、阿波おどりも、そういった時期だと現在、感じております。そこで、一度、イベントの内容を大きく変えていただくことを私の要望といたしまして、私の質問を終わらせていただきます。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

町の三大イベントに対して、さらに活性化を含めて、いろいろなご提案をいただき本当にありがとうございます。来年には橋がもう一つ開通予定で今、進んでおりますし、また、南小学校から開成役場まで、それも同時に開通予定であります。そういった中で、この4月の総合計画のスタートの中で、まちづくり集会の中でお話をさせていただいたのは、今まで南部地区、あと1年ほどで区画整理も終わりますけれども、南部地区にお金を投資して、これは定住人口という形で開成町の人口を増やしていく施策をやってきましたけれども、あと1年ほどで終わりますので、大まかに、今後は北部地域、瀬戸屋敷を核にした北部を中心に整備をして、交流人口を増やしていきたいというお話をさせていただいております。北部の交流と南部の定住、あわせて町を元気にしていくという中で、この間の知事の懇談会の中でも道路整備、役場の横から北部の瀬戸屋敷まで18メートル道路を延伸してもらう要望もお願いしております。

そういった中で、いろいろなイベントの提案をいただきました。特に、あじさい祭において、お客さんを増やす方法ばかりではなくて、増やして来ていただいた以上は、きちんとおもてなしをしなくてはいけないという中で、受け入れの「ようこそ、開成町」という中で、いい提案をいただきましたので、橋が4本ありますので、車で来る方には、橋を渡って開成町に入るときには、そのような旗でも看板でもつくって目立つようにしたいと。開成駅を使ってご利用の方には、駅をおりた瞬間、開成町のあじさいの歓迎の形を、これから提案を受け入れながら考えていきたいなと思っております。

特に、北部のあじさい公園周辺の先ほどの写真スポット、これ、すごく大事なことでと思います。開成町のあじさいの売りというのは、あじさいの花だけではないのです。田んぼの周りにあじさいが植わっている全体の風景、富士山も見えるということで、今年、少し上から見られるような工夫をしたのですけれども、うまくいかなかったということで、もう少しきっちりと上から見れる写真風景というのは、絶対、これ売りになると私は思っています。今年、天気予報の映像の中でも、上からの写真が映されたときに、ああ、これはいい映像だなと。こういうのは必ず売りになるので、そのような工夫は今年か来年のあじさい祭には考えていきたいと思っ

ています。

全体の中で、北部の活性化、お子さんをどうやって呼ぶかも含めて、トータルで考えていきたいと思っています。あじさいの中だけの子どもを呼ぶということではなくて、瀬戸屋敷周辺を全て含めて、関連を含めて、年間、お客さんに来てもらうように、子どもを核にイベントを考える、子どもを核に事業を考える、それも含めて全てトータルで考えていきたいと思っています。

基本的には、北部活性化に対して力を入れていくということとともに、南部のバランスを考えております。いろいろな角度で見直しの話ですね、最後に言われたのは。確かに、そう思っています。それをどうやって見直しをするかというときに、やはり外部の力を私はちょっとかりて、今のあじさい祭のPRの仕方、イベントの仕方、阿波おどりもそうです、これが今のままでいいのか、外の評価を、プロの方も含めて外部の力をかりて、その辺の検討事項に入れたいと思っていますので。そういう中で検討された中で、またいろいろな変更をしていくかもしれませんけれども、そういうときには、また皆さん方にいろいろなご意見を聞く場をつくってやっていきたいと思っていますので、ぜひ、ご協力をお願いします。

以上です。

○議長（小林哲雄）

佐々木議員。

○9番（佐々木昇）

ぜひ、お願いいたします。

これで私の質問を終わらせていただきます。

○議長（小林哲雄）

暫時休憩といたします。再開を15時20分といたします。

午後3時05分